



11
15
18

児童 と 文学

—怪と奇と性を
めぐって—



Children and Literature -A Talk on Mystery, Oddity and Sexuality-

2018年11月15日(木)
12:30~16:00
@芸術研究棟芸3講義室
※比較文学研究室主催ですが、聴講は自由、事前申込は不要です。
主催:大阪大学比較文学研究室
(内線2168)

阪大比較文学会シンポジウム 児童と文学 —怪と奇と性をめぐって—

12:30-12:35 開式の辞 橋本順光

第一部:時代と文脈 —そこから見る—

12:35-13:05 有村友里
「『八つ墓村』と横溝正史ブーム
—『週刊少年マガジン』を補助線として—

13:05-13:35 川手寛子
「安部公房による海外SF受容
—1957年を境に現れる表現の変化に注目して—

13:35-14:05 朴秀浄
「『潮騒』における「純愛」
—同時代の性教育を視座として—

休憩14:05-14:20(15分)

第二部:改変と転用 —あとから見る—

14:20-14:45 飯村言葉
「弥助はいかにして「くろ助」となったのか
—来栖良夫『くろ助』における改変部の分析を手がかりに—

14:45-15:10 胡恒穎
「童話からホラー映画まで:
『虎姑婆(Grandaunt Tiger)』を中心に」

15:10-15:40 橋本順光
「手塚治虫における『聊齋志異』の転用
—「狐聊」から「四谷快談」まで—

15:40-15:55 講評と自由討議
〈講評者〉佐藤宗子(千葉大学教授)、橋本順光

15:55-16:00 閉式の辞 橋本順光